



## 麻布の図書館

山口 光恒

週末に図書館通いをするようになって五年以上たつ。正月や海外出張を除いて週に二日はこもっているので、まずは精勤の部類である。と言うと聞こえはよいが、実は土曜、日曜日に家で本を読んでいると粗大ゴミ扱いとなり、家内は昼食の用意もしなければならぬというので、体よく追い出されているというのが真相である。

高校生のときに一時、麻布鳥居坂の教会に通ったことがある。クリスマスライブに近くの国際文化会館で聖歌隊に混じって賛美歌を歌うと必ず紅茶とケーキを出してくれて、それ以来この会館が気に入っていた（最近はどうもこのサービスが廃止されたらしい）。その後ここで結婚披露宴を開いたこともあり、いつの間に

かメンバーになった。そして、この会館にある実に気持ちのよい図書館へ通い詰めることとなった。

何しろ静かで、そのうえ滅法すいている。しかも食堂へ昼食にいくとき、机上にすべて放置しておいても絶対安全で、すこぶる気分がよい。とは言っても、会員の三分の程度は外国の学者という組織なので、蔵書はほとんど英語。小生が利用するのは、せいぜい六法全書と新潮社の国語辞典で、専ら家から書類を持ち込んで、読んだり書いたりしている。

図書館での楽しみは人との出会いである。土曜の午前中は、学生時代のオーケストラの仲間では今国際舞台で大活躍のUさんに時々会う。見事な庭に面した食堂でゆっくり食事を共にしながら、仕

事、家族、音楽、健康のことを話し合う。Uさんのご兄弟は全員このメンバーで、その方々にも随時お会いし、これが無上に楽しい。

場所柄、学者の方々にお目にかかることも多い。その中でも最も頻度の高いのが大学の学長であるT先生である。学生時代から存じ上げていたが、ある日、お目にかかった直後にT先生の学長ご就任を新聞で知り驚いたこともある。また、日米問題や雇用問題で大活躍のS先生にお目にかかったこともある。図書館でS先生の論文を拝読し、ロビーに出て先生と会おうといった偶然もあった。ある時はゼミナールの先生ご夫妻と食堂でお会いし、「君、勉強していますか」と聞かれ、答えに窮したこともある。

何とか図書館通いが続いているのも、こうした方々との出会いがあるからであり、これに加えてスタッフの方々の行き届いたサービスがあるからである。

(東京海上火災保険 企業リスクコンサルティング室長)